

第1 はじめに

本分析では、福島県および県内7つの生活圏単位、県内市町村単位で、平成22、25、27年度を対象年度として、地域ごとに産業の特徴やその変化をBN分析という手法を用いて分析を行っている。

本分析は、以下のように大きく分けて4つの部分から構成されている。

1 地域経済基盤の分析(BN分析)

基盤産業の意味や計算方法といったBN分析の基本的な事柄と、基盤産業の中から特に主要となる産業を選出する方法(本分析では修正ウィーバー法という手法を用いている。)を解説している。

2 福島県の基盤産業

県の経済構造の推移と基盤産業について、解説を加えながらまとめている。

3 福島県内7つの生活圏単位にみた基盤産業

県内7つの生活圏ごとにみた経済構造の推移と基盤産業について、解説を加えながらまとめている。

4 福島県内市町村単位にみた基盤産業

県内の各市町村について、市町村別に基盤産業表を掲載している。

BN分析では、地域の経済を把握するために、経済活動を「基盤活動」と「非基盤活動」に分けている。「基盤活動」とは自地域消費分を上回る余剰分の生産活動があり、地域外から所得をもたらし、その地域の経済的成長を支える基盤となる。これに対して、ある地域内の需要を賄うための生産活動、あるいはその地域だけでは賄えず他地域から移入する活動を「非基盤活動」と呼ぶ。これらの活動をしている産業を、それぞれ「基盤産業」、「非基盤産業」と呼ぶ。

ここで基盤活動の計算を行うには、地域の自己消費分(その地域の内部需要)を求める必要がある。BN分析では、全国の生産水準を各地域の平均的な自己消費分とみなし、全国水準を上回った分は他地域へ移出され、その地域に所得をもたらすと考える。実際の計算は全国及び地域の総生産額を用いて、以下のように行う。

まず全国の産業別総生産を、各産業の構成比を変えないようにして、ある地域の経済規模まで小さくし、「全国の縮図」をつくる。次に、実際の地域の総生産と「全国の縮図」を産業別に比較し、地域の方が上回っていれば基盤産業、下回っていれば非基盤産業とする。さらに修正ウィーバー法により、基盤産業の中で特に主要な産業(主要基盤産業)を選出する。このとき、主要基盤産業は総生産自体の構成比ではなく、基盤活動に相当する総生産の構成比順に選ばれる。

なお、BN分析では全国値を基準とした相対的なものであるため、地域にとって基盤となる産業をみつ

けだすことはできても、生産規模や水準そのものを他地域と安易に比較することはできないことに留意する必要がある。